令和５年 11 月吉日

保護者　様

横浜市立篠原中学校
校長　濵﨑　利司

令和５年度　横浜市立学力・学習状況調査の結果と分析

日ごろより、本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、今年度当初の令和５年４月 27 日に実施した『横浜市学力・学習状況調査』の調査結果が、11 月に提供されました。遅れましたが、本校の調査結果から分析を行いましたのでお知らせします。

この調査は、前年度からの経年変化が分かるようになっています。１年生については、小学校時の学習および生活調査（成長具合と変化）とお考え下さい。なお出題範囲は次のとおりです。

□教科に関する調査（調査する学年の前学年までに含まれる指導事項）

学習指導要領及び「横浜市立学校 カリキュラム・マネジメント要領」に準拠し、観点別学習状況の評価の観点である「知識・技能」と「思考・判断・表現」について調査

□生活・学習意識調査

教科に関する調査結果の背景にある児童生徒の生活や学習に関する意識や行動について調査

【学力調査結果（３年）】

国語	どの設問に対しても正答率は市平均を上回る結果であった。とくに説明的文章や文学的文章を読み、内容について正しく理解することができる生徒が多いのが本校の強みであることがわかった。しかし、「情報活用」の分野においては、他の領域と比べて明らかに正答率が低いため（無答率も高い）、この分野に対して苦手意識がある生徒が多いこともわかった。 これらの結果より、本校３年国語の課題は“適切に理解した上で、その知識を使い、自分を表現する力をつけること”である。この課題解決に向けて、「知識を得る」だけではなく、「知識を活用する」ことができるような指導を継続的に続けていきたい。
社会	多くの設問において市平均を上回る結果であった。地理的分野を中心とする位置や空間的な広がりからの発展についての力が高い一方で、歴史分野を中心とする時期や時間の経過からの発展に関する問いに課題がある。１・２年時からは改善されつつあるが社会科の各分野で、バランスのとれた力をつけていく指導を進めていきたい。

数学	１・２年生の結果と比較して、統計・関数の分野の正答が増え、グラフ等を使って物事を考える力がついてきたことが本校生徒の強みと考えられる。 一方で、「式の利用」の内容の正答率はあまり増加が見られなかったことから、日常の問題を解決するために文章を読んで立式をすることに苦手意識があるように思われる。 今後も、継続してグラフ等を使って考える問いを扱い、他には立式する必要性・考えのプロセス等も指導していくことで、さらなる資質・能力の向上を図っていきたい。
理科	１・２年生と比較して理科の意識が高くなっている。日常生活に理科が少しずつ根付いてきているかと思う。しかし、単元「エネルギー」では光や凸レンズを苦手とし、単元「地球」のでは火山・地層・雲の発生や天気図の記号など正答率が低かった。単元ごとに対して、復習の確保や内容のつながりを、現状より意識して指導していきたい。
英語	教科全体の正答率は市平均を上回っている。昨年度に比べ、「聞くこと」「書くこと」の項目が伸びている。とくに「はっきりと話されたアナウンスを聞いて、必要な情報を適切に捉えている」では 90%を超える正答率となった。また、「英字新聞の内容を基に、自分の考えなどを適切に書いている」では市平均を大きく上回った。課題としては、「書くこと」を正しく表現できる力、また文法事項や内容を豊かにするための表現できる力を伸ばしていきたい。

【学力調査結果（２年）】

国語	教科全体の正答率は市平均を上回っている。知識・技能では「説明的な文章」の分野の正答率が高く、思考・判断・表現では「文学的な文章」の分野の正答率が高い。課題としては、「情報活用」の分野における思考・判断・表現の正答率が低いことが挙げられる。今後は、文章内容や情報を正確に理解する力をさらに伸ばすとともに、自分の考えを確かなものにし、適切に表現する力を身に付ける必要がある。授業では、得た知識を基にして対話的な活動や表現活動を積極的に行い、自分の考えや思いを深めるとともに進んで表現できる力を伸ばしていきたい。
社会	昨年度に比べ、学習意識や社会知識の項目が大きく伸びている。また、質問の「社会科の学習では、調べた事実を基に考え、課題を解決しようとしていますか」では、市平均を大きく上回る結果となった。毎回の授業で、授業開始時の前時の振り返りやグループワークに慣れてきている結果だと考える。授業中のグループワークで身に着けた知識を基に表現することや、振り返りレポートで文章表現することに引き続き重点を置き、社会的思考・判断の力を伸ば

	していきたい。
数学	すべての設問に対し、市平均を上回る結果であった。その中でも「平面図形」の領域では知識・技能の正答率が高い。一方、「確率」の領域では、どちらの観点も低い結果となった。また、どの設問・領域に対しても思考・判断・表現の正答率は低い。 今後、基礎・基本の定着を図るとともにその知識を利用して様々な問題を解いていく力を身につけさせる必要がある。そして、物事の事象を論理的にとらえて考える習慣を身につけ、思考力・判断力・表現力を伸ばしていきたい。
理科	各問題への正答率はすべて市平均を上回っている。しかし、領域ごとの正答率では、知識・技能はどの領域も総じて高いが、思考・判断・表現は地球の捏問では高く、粒子の設問では大きく正答率が低いという結果になった。化学分野での科学的思考力を高めるために、既習内容の知識や技能、そして実体験を踏まえた上でグループワークや図を使った他者に対する説明など、自分の考えを表現する場面を増やす工夫を行いたい。
英語	全般に正答率は市平均を上回っている。特に「簡単な語句や文で書かれた英文を読んで、内容を正しく捉えている」は市平均を大きく上回っている。また「自分のことを簡単な語句や文を用いて適切に書いている」でも、正答数も市平均を上回り、無回答も少なく、恐れず英語で文章を書くことができるようになっている。引き続き、自分のことを表現する文を書く機会を確保し、書く力をさらに伸ばしていきたい。

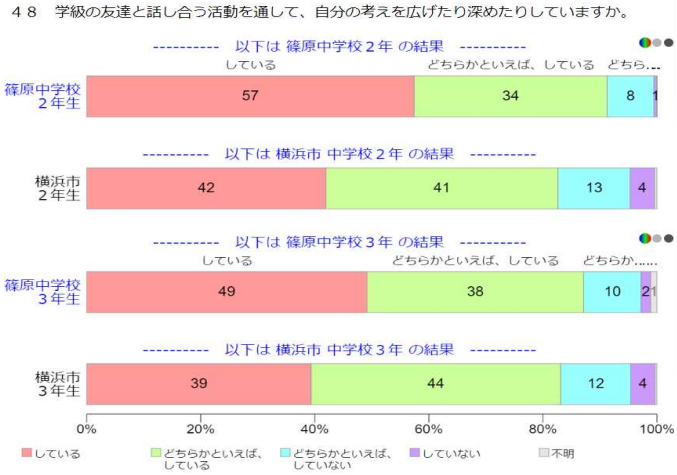
【学力調査結果（１年)】

国語	全体的に各問題の正答率は市平均を上回っている。知識・技能では説明的な文章の正答率がよく、思考・判断・表現では文学的な文章のほうがよくできている。ただ、一年生でも中間層がうすく、“二極化”が見られるので、情報活用など書く問題の無答を減らすなど、基礎的な学力の底上げをしていく必要がある。
社会	各問題の正答率は市平均を上回っており、知識・技能および思考・判断・表現ともにバランスよく身についている。今後の学習では、資料を読み取り、根拠に基づいて発表する場を設け、自分の考えを表現することや資料から予測することで、思考・判断・表現を中心に伸ばしていきたい。
数学	すべての設問に対し、市平均を上回る結果であった。その中でも「数」の領域では知識・技能および思考・判断・表現ともに正答率が高い。一方、「平面図形」の領域では、どちらの観

	点も低い結果となった。 　引き続き基礎・基本の定着を図るとともに、今後は物事の事象を論理的にとらえ、考える習慣を身につけさせることが必要であると考える。
理科	各問題への正答率はすべて市平均を上回っている。領域で見ると、知識・技能はどの領域も総じて高い正答率となっているが、思考・判断・表現は領域によって差が出ている。全体的に「追求し考えを出す」力に課題が残る結果となった。すでに持っている知識・技能を生活に生かす意識を高めるため、身近な活用例や実験レポートでの自分の考えを表現する場面を増やしていきたい。
英語	ほとんどの設問に対し、正答率は市平均を上回っている。その中でも思考・判断・表現の問題「自己紹介を聞いて、簡単な語句や基本的な表現を書く」の正答率は市平均を大きく上回ったが、正答率は全問の中で一番低かった。今後、授業で聞いた内容を学習した単語、文法を使って英語で説明したり、書いたりする場面を増やしていきたい。

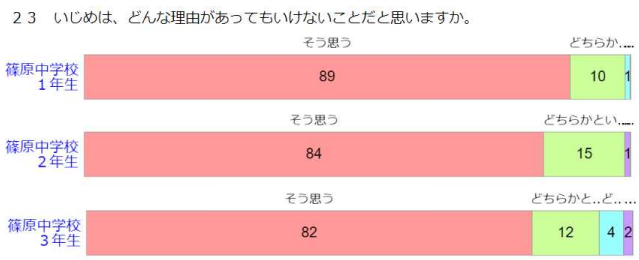
【生活・学習意識調査】

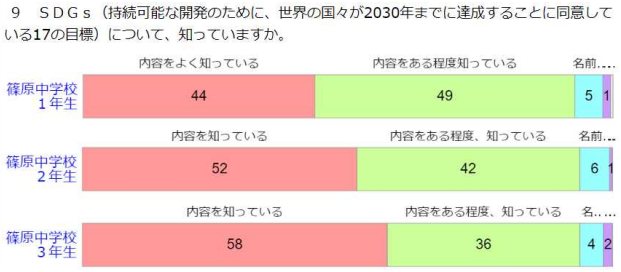
『１日にどれくらいの睡眠をとっていますか』は、学年が上がるにつれて、睡眠時間が減っていく傾向にあります。とくに３年生では、『６時間未満』が 12%と市平均よりも多いです。これは帰宅後の３年生は、『3.習い事を含む学習』や『５.ゲームに費やしている時間』が多いと結果（グラフは３年）と相関しています。また『家庭で、一日にどのくらい携帯電話、スマートフォン、タブレット、パソコンなどを使っていますか（ゲームをする時間は除く）』では、学習での利用も考えられますが、インターネットや SNS の視聴もここに含まれます。校内では ChromeBook が一人１台配当されていますが、原則、授業以外の場面で利用することはなく、日中、YouTube やゲーム等は利用できない仕様になっています。もしかすると遅い時間に SNS や YouTube を視聴している可能性があり、中学生になってスマホを手にすることで、睡眠時間を削って過ごしていることが多いのではないかと推察できます。家庭でのスマートフォン、タブレットの利用の仕方に注意が必要です。

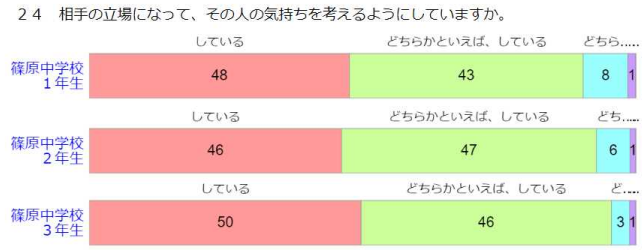


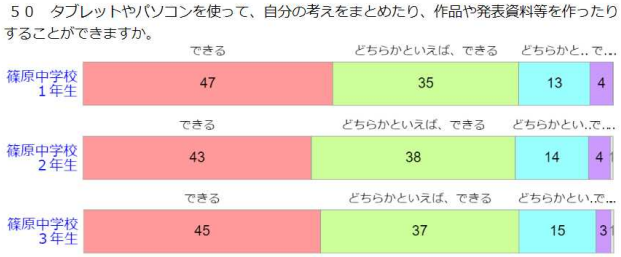
『48．学級の友達と話し合う活動を通して、自分の考えを広げたり深めたりしていますか』では、2，3年生において、市平均を大きく上回りました。これは多くの教科、場面で話し合い活動を取り入れている表れと思われます。さらにそれぞれの学年で『意見が分かれたときには、それぞれの立場に立って考えるほうだと思いますか』『37．友達のしたことや言ったことに対して、なぜそれをしたり言ったりするのか理解できるほうだと思いますか』（グラフは 2 年）『自分の考えを、相手に分かるように伝えようとしていますか』などの他者理解を問うような質問は「そう思う」と自信をもって答える生徒も市平均を上回っています。話し合い活動を行うことによって、学習意欲と他者理解の向上に大きな成長が見られました。

しかしながら、『「不思議だな」「もっと知りたいな」と思うことがありますか』『34．うまくいかないときには、なぜできないのかを考え、やり方を変えたり、次の方法を試したりしていますか』では、市平均を下回りました。これは学習意欲があるものの、話し合い活動によって深く考えたり、追究することが阻害され、周りの意見に流されているのではないかと推察もできます。学力調査結果からも、各教科の知識は十分にあることはわかりますが、その知識から探究につながらず、うまく思考・判断・表現に活用できていないと学力調査からも伺えます。例えば SDGs に関する題材は、国語や社会、理科、英語、技術・家庭など環境教育はどの教科でも取り扱うので、教科横断的な思考・判断・表現となるような話し合い活動の充実に心がけ、語彙力、表現力を高めるとともに、深く探究できるような発問の仕方、教材など指導の工夫、改善が必要と感じています。









『23．いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか』『24．相手の立場になって、その人の気持ちを考えるようにしていますか』では、市平均と同様にいじめはいけないことと問題意識を高くもっています。本校の学校教育目標である『〇想いをはぐくむ（自分だけでなく他者に対する気持ち、接し方、態度などを育てていく）　〇未来へつなげる（他者との関りや学び合いを通じて、社会の中にある自分を次のステップへ進めていく）』を掲げながら、教職員一同指導しています。今後も道徳教育や人権講習会などを開きながら他者理解に努め、いじめのない学校を目指していきたいと思います。

『9．SDGs について、知っていますか』では、SDGs への意識は市平均より大きく上回っています。これは生徒会本部や生活委員会、美化委員会など各種委員会で進めている SDGs を意識した普段の活動や教科授業などで SDGs と連携させた題材、課題解決学習が浸透していると言えます。今後も一人１台の ChromeBook を活用して、本校の強みを生かし継続的な主体的で、対話的な深い学びとなるように尽力し、『〇自分をつくる　〇想いをはぐくむ　〇未来へつなげる』生徒を育てていきます。